

ANNE
FRANK

CHIUNE
SUGIHARA



生きるため
希望と幸福の未来を



THE HOLOCAUST

勇気の証言—ホロコースト展

アンネ・フランクと杉原千畝の選択 神奈川展

入場無料

The Courage to Remember: The Holocaust 1939-1945
The Bravery of Anne Frank and Chiune Sugihara

2019
9/19-23
(木) (月)

[9/19] 13:30 ▶ 20:00 [9/20-23] 10:00 ▶ 20:00 ※最終入場 19:30

横浜産貿ホール マリネリア

(神奈川県横浜市中区山下町2)

【主 催】「勇気の証言—ホロコースト展」実行委員会
【共 催】創価大学、サイモン・ウィーゼンタル・センター(米国)
【後 援】フランス大使館、ドイツ連邦共和国大使館、イスラエル大使館、リトアニア共和国大使館、オランダ王国大使館、ポーランド共和国大使館、アメリカ大使館、駐日欧洲連合代表部、国連広報センター、NPO 杉原千畝命のビザ、神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育委員会、神奈川県原爆被災者の会

【特別協力】神奈川新聞社／tvk(テレビ神奈川)／ラジオ日本 Fm yokohama 84.7／J:COM
【協 力】創価学会平和委員会



アンネの姉
マルゴー・フランク
©Simon Wiesenthal Center
Archives, Los Angeles, California

アンネ・フランク
©Simon Wiesenthal Center
Archives, Los Angeles, California



ユダヤ人の母子に狙いをつけるSS(親衛隊)。
©我々は忘れてはいない、1939-1945年(フルシャワ、1941年)



引き離され、移送される子どもに分かれを告げる家族
©Kibbutz Lohamei Hagetaot



学生時代の杉原千畝
©NPO 杉原千畝命のビザ

ビザの発給を求めてリトアニアの領事館に集まつたユダヤ難民たち
©NPO 杉原千畝命のビザ



横浜産貿ホール マリネリア

〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町2

ACCESS

みなとみらい線「日本大通り駅」
3番出口より徒歩約5分（東急東横線に直通）

J R・横浜市営地下鉄「関内駅」
南口より 徒歩約15分

横浜市営バス「神奈川自治会館」

バス停 徒歩約3分

横浜市営バス「大さん橋」

バス停 徒歩約1分

首都高速「横浜公園ランプ」より

約5分

みなとみらい線
「日本大通り駅」

日本情報
文化センター

山下公園

シルク
博物館

神奈川県民ホール

ホテル
モントレ
横浜

横浜産貿ホール マリネリア

ザ コンチネンタル横浜

KAAT
神奈川芸術劇場

ローズ
ホテル
横浜

中華街

THE HOLOCAUST

勇気の証言—ホロコースト展

アンネ・フランクと杉原千畝の選択

第二次世界大戦終結から70年にあたる2015年、「勇気の証言—ホロコースト展 アンネ・フランクと杉原千畝の選択」を制作し、同年10月より展示会を開催しています。

本展では、ナチス・ドイツによるホロコースト（大量虐殺）の歴史をたどるとともに、その時代を生きた「アンネの日記」の著者アンネ・フランクと、「命のビザ」で多くのユダヤ人を救った日本人外交官・杉原千畝の人生に光を当てています。

ホロコーストは、人類が20世紀に経験した最も悲惨な歴史の一つです。一方で、世界各地における民族対立、紛争、テロ、さらにヘイトスピーチ等に象徴される、人間が人間を差別し虐げる行為は、今なお続いている。その意味で、ホロコーストの歴史と、その時代を生きた人びとの真実に迫ることは、あらゆる戦争や差別の根源を見出すことに繋がるのではないかでしょうか。本展が平和と人権を考えための一助になれば幸いです。

「勇気の証言—ホロコースト展」実行委員会

第1章 ホロコーストの歴史

ホロコーストはいかにして起きたのか。ヨーロッパにおけるナチスの台頭、ヒトラーによる人種隔離政策、強制収容所でのユダヤ人絶滅計画とアウシュビッツ・ビルケナウにおける大量殺戮。人類の負の遺産として消し去ることのできないホロコーストの歴史を、米国サイモン・ウィーゼンタール・センター「寛容の博物館」の展示から紹介し、その真実に迫ります。

第2章 アンネ・フランクと杉原千畝の選択

2年間におよぶ恐怖の隠れ家生活の中で、希望を失わず成長していった少女、アンネ・フランク。日本政府の命令に背いて「命のビザ」を発給し続け、6,000人におよぶユダヤ人を救った外交官・杉原千畝。ユダヤ人迫害の嵐が吹き荒れた時代に、人間としてどう生きるかを迫られた二人の人生をたどります。

第3章 私からはじまる「人権」

自分にとって大切な人権は、他人にとっても大切であるにちがいない—こうした想像力を働かせることができれば、世界はより住みよい場所になるのではないでしょうか。そのための一歩は、自分から始まる。ホロコーストの歴史が、今を生きる私たちに投げかける問いについて、考えるスペースを展開します。